

## 平成21年度 神戸市学力定着度調査の結果について

神戸市教育委員会は、児童生徒の学力定着状況を把握し指導改善に役立てるために、平成15年度より独自の学力定着度調査を行っている。このたび21年度の調査結果を下記の通り取りまとめた。

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の対象学年と対象児童・生徒数

	抽出数	備考
小学校第5学年	1,380人	全市小学校第5学年の約10% (抽出校60校)
中学校第2学年	1,180人	全市中学校第2学年の約10% (抽出校30校)

#### (2) 調査方法と調査教科・内容

調査方法・対象学年等	調査教科・内容	
学力定着度調査	小学校第5学年	国語・社会・算数・理科 (選択式・一部記述式)
	中学校第2学年	国語・社会・数学・理科・英語 (選択式・一部記述式)
質問紙調査	小5児童・中2生徒	学習に対する意識・生活実態調査 (選択式)
	教員	児童生徒の学習状況・学校教育活動に関する調査(選択式)

※調査問題は、過去の教育課程実施状況調査（文部科学省）等を使用

#### (3) 実施日（標準実施日）

平成21年10月27日（火）28日（水）

### 2. 結果の概要

#### (1) 教科に関する調査結果

- ・小・中学校ともに全ての教科で分析基準の±4.9ポイント以内に入っており、学力は概ね定着しているといえる。
- ・小学校では「社会」の「日本の自然」領域、中学校では「国語」の「言語事項」、「数学」の「図形」領域が+5ポイント以上の差を示し、良好な結果であった。
- ・-5ポイントを下回る領域はなかった。

#### 【分析・評価の基準】

- 参考正答率：今回の調査に利用した過去の教育課程実施状況調査（文部科学省）等の全国正答率及び、過去の神戸市独自問題等における正答率
- 教科全体、領域別、設問毎の正答率について、参考正答率との比較を3段階で行った。
  - +5ポイント以上……………「良好」
  - +4.9～-4.9ポイント……………「概ね定着している」
  - 5ポイント以上……………「課題がある」

#### (2) 児童生徒に対する質問紙調査

- ・「家の人にいつもあいさつをしている」と答えた児童生徒の割合が、平成16年度以来増えており、調査開始より最もよい結果となった。
- ・「学校に行く前に必ず朝食をとる」と答えた児童生徒の割合が、平成16年度以来増えており、調査開始より最もよい結果となった。

#### (3) 教員に対する質問紙調査

- ・教育課題の中で特に重視する項目として「学力向上」とともに「道徳・倫理観・規範意識の向上」を多くの教員が挙げた。
- ・「分かる授業」を行うために日頃から重視している項目は「教材研究」「分かりやすい説明の工夫」「導入・発問・板書の工夫」であった。

### 3. 各教科の調査結果

上段は21年度神戸市平均正答率〔%〕、下段（ ）は参考正答率〔%〕

#### 《小学校》

	全設問	領域別			
		書くこと	読むこと	言語事項	
国語	80.7 (78.8)	78.7 (77.0)	81.9 (82.9)	81.3 (78.5)	
社会	71.7 (70.7)	日本の自然	日本の国土	日本の農業	日本の水産業
		69.6 (60.9)	90.3 (86.9)	63.5 (65.0)	68.6 (72.3)
算数	71.7 (72.1)	数と計算	量と測定	図形	数量関係
		72.8 (74.2)	81.5 (78.7)	68.8 (68.5)	68.8 (68.6)
理科	79.9 (76.9)	生物とその環境	地球と宇宙	物質とエネルギー	
		85.6 (82.3)	79.7 (75.8)	72.0 (70.0)	

#### 《中学校》

	全設問	領域別			
		聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
国語	65.7 (62.2)	86.2 (86.3)	50.5 (55.2)	61.5 (63.1)	70.5 (57.4)
社会	54.4 (55.1)	地理		歴史	
		58.2 (57.1)		50.5 (53.2)	
数学	68.2 (63.6)	数と式	図形	数量関係	
		67.6 (64.1)	66.8 (60.0)	70.5 (65.7)	
理科	61.8 (61.7)	第1分野（物理・化学分野）		第2分野（生物・地学分野）	
		60.7 (61.7)		62.8 (61.7)	
英語	59.4 (62.7)	聞く	読む	書く	
		69.8 (73.8)	60.7 (64.7)	42.7 (44.2)	

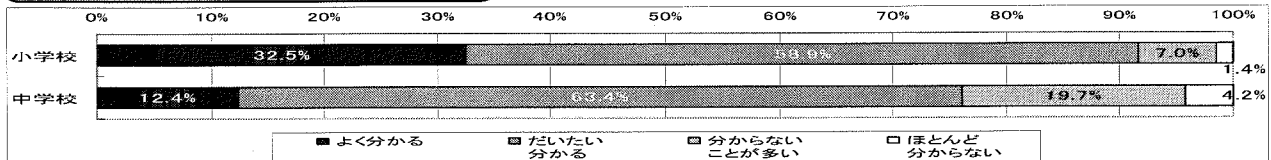
1. 小・中学校ともに全ての教科で分析基準の±4.9ポイント以内に入っており、学力は概ね定着しているといえる。
2. 小学校では「社会」の「日本の自然」領域、中学校では「国語」の「言語事項」、「数学」の「図形」領域が+5ポイント以上の差を示し、良好な結果であった。
3. 前回調査では2つの領域で-5ポイントを下回ったが、今回調査では該当する領域はなかった。
4. 前回-5ポイント以上の差を示し、課題が見られた小学校「理科」の「物質とエネルギー」領域、中学校「国語」の「読むこと」領域では、今回改善が見られた。
5. -4.9ポイント以内であるが、参考正答率を下回った領域については指導の改善を図っていく。

#### 【分析・評価の基準】

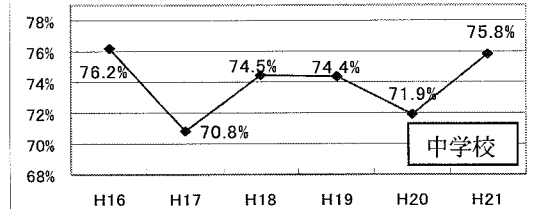
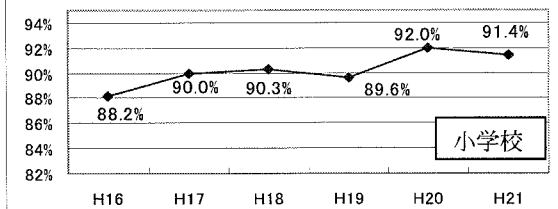
- 参考正答率：今回の調査に利用した過去の教育課程実施状況調査（文部科学省）等の全国正答率及び、過去の神戸市独自問題等における正答率
- 教科全体、領域別、設問毎の正答率について、参考正答率との比較を3段階で行った。
  - +5ポイント以上……………「良好」
  - +4.9～-4.9ポイント……………「概ね定着している」
  - 5ポイント以上……………「課題がある」

#### 4. 学習に対する意識・生活実態調査より

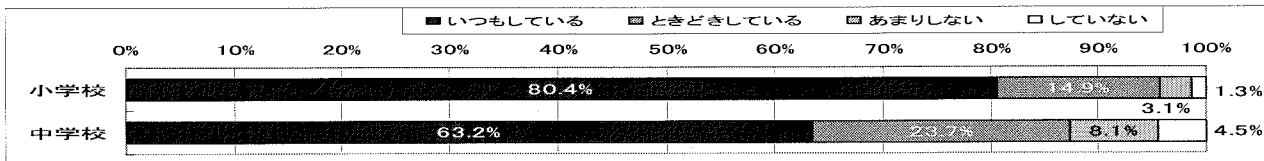
##### 学校の授業がどの程度分かりますか？



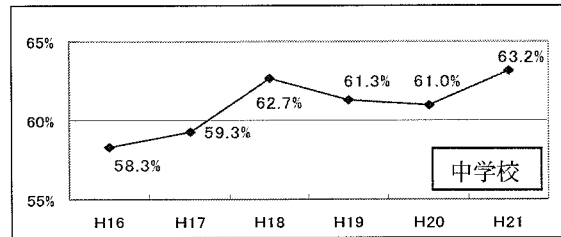
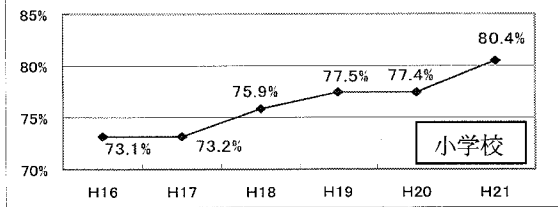
##### 「よく分かる」「だいたい分かる」と答えた割合の変化



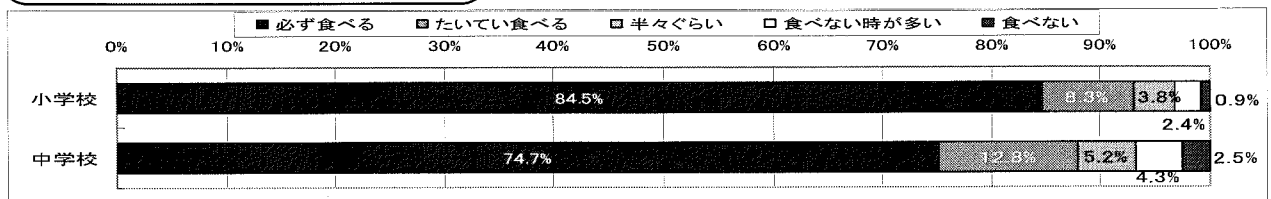
##### 家の人にあいさつをしていますか？



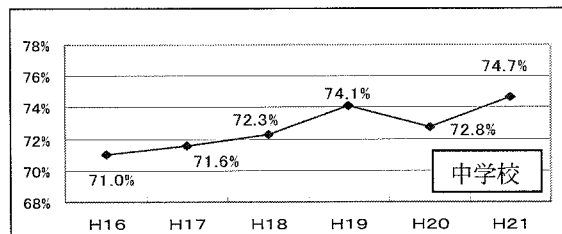
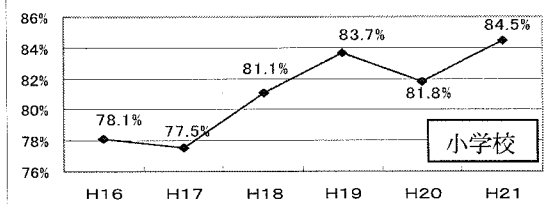
##### 「いつもしている」と答えた割合の変化



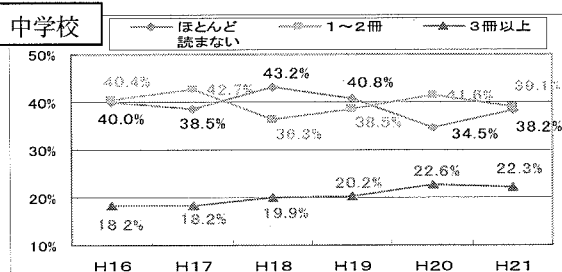
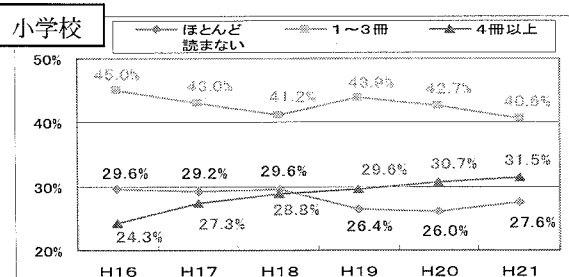
##### 学校に行く前に朝食をとりますか？



##### 「必ず食べる」と答えた割合の変化

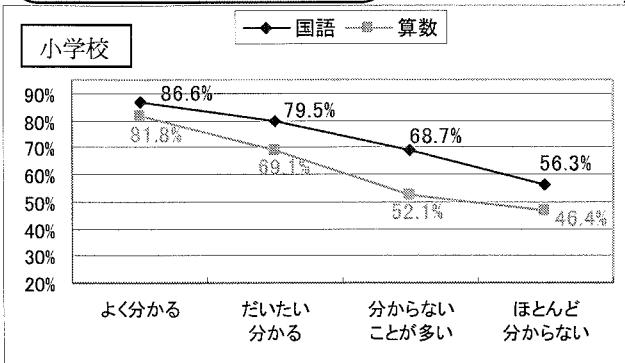


##### 1か月に何冊ぐらいの本を読みますか？（教科書・参考書・マンガ・雑誌をのぞく）



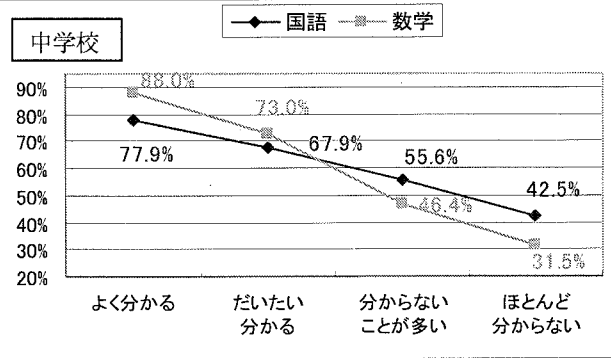
## 5. 生活と学力・体力等との相関関係より

「授業が分かる」×正答率

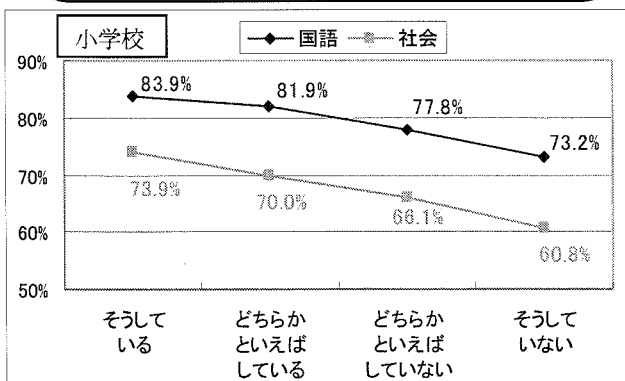


「授業が分かる」と答えた児童生徒は、全ての教科において正答率が高い傾向が見られた。

中学校

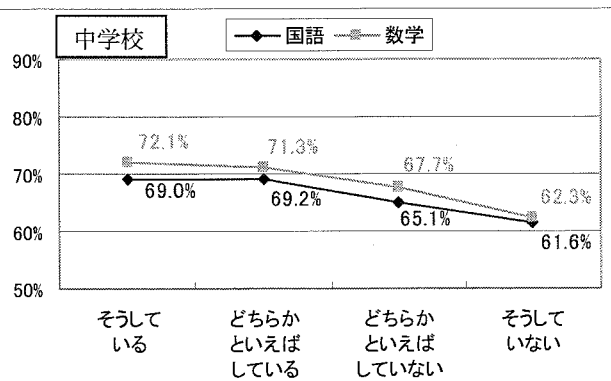


「授業中に文章や資料を読んで、自分の考えを話したり書いたりしている」×正答率

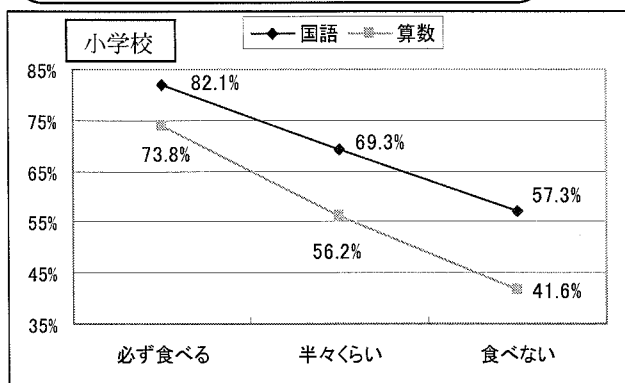


「そうしている」と答えた児童生徒は、全ての教科において正答率が高い傾向が見られた。

中学校

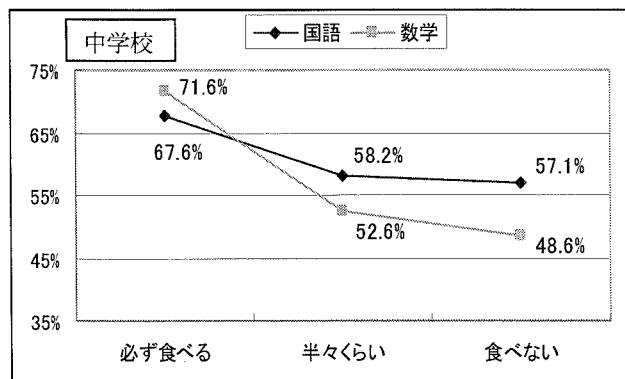
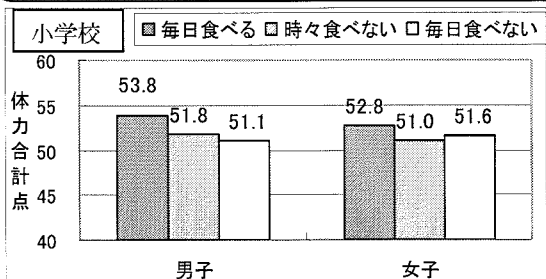


「学校に行く前に朝食をとる」×正答率

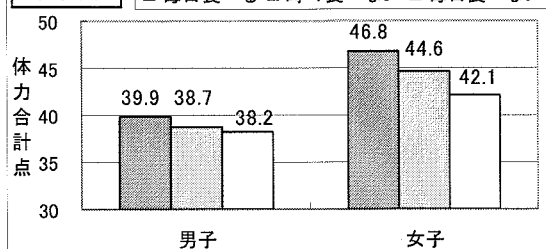


朝食を「必ず食べる」と答えた児童生徒は「食べない」子に比べて学力が高く、また体力も高い傾向にある。

「朝食を食べる」×体力テスト合計点  
「21年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」より

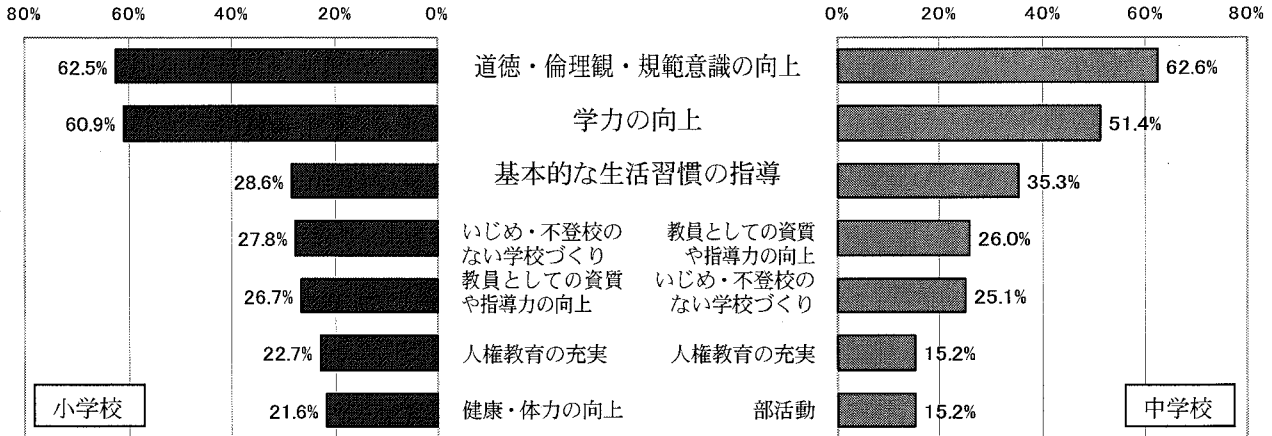


中学校

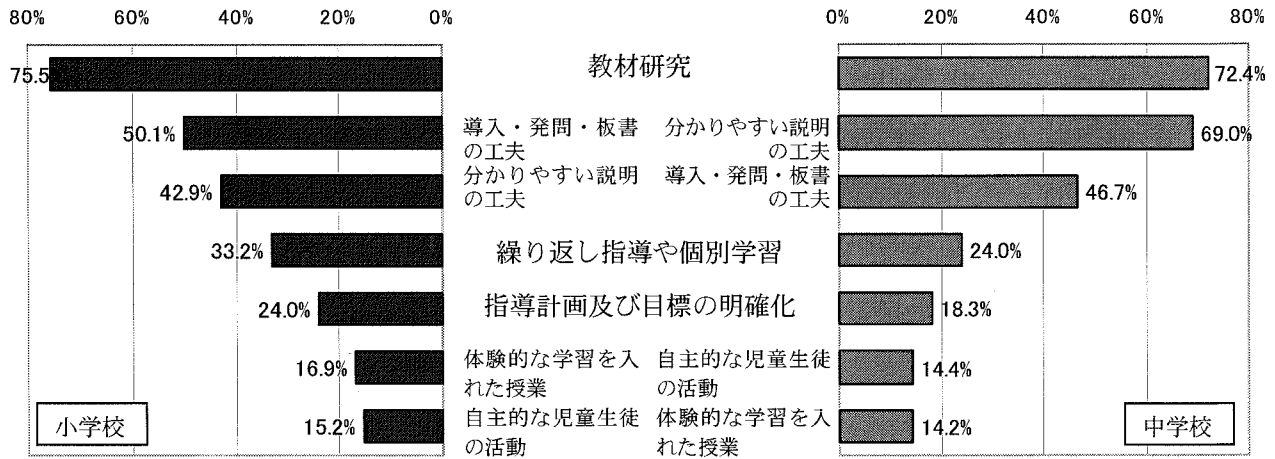


6. 学習状況等に関する教員調査より

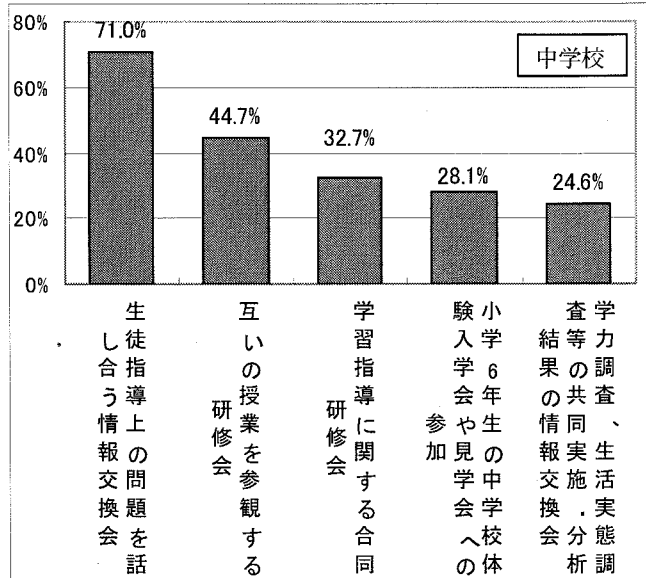
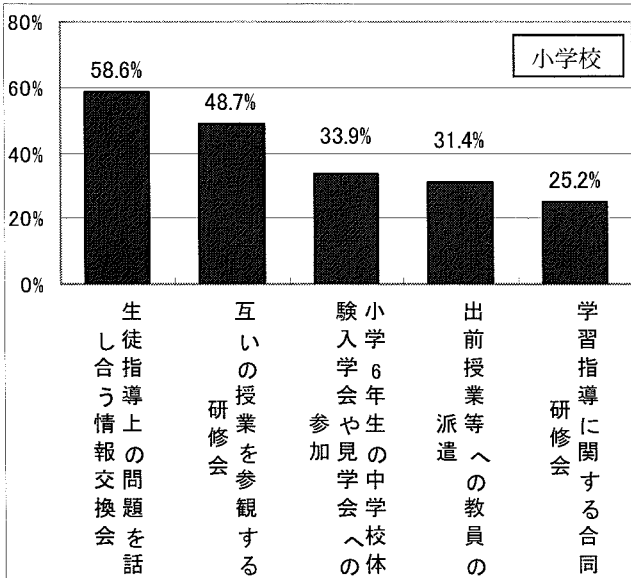
教育課題の中で特に重視していききたい項目は何ですか？（3つ選択）



「分かる授業」を行うために日頃から重視している項目は何ですか？（3つ選択）



小・中学校の連携のために、今後どのような取組を重視するべきだと思いますか？（3つ選択）



## 7. 学習指導の改善のために

### (1) 知識・技能の確実な習得

- 「算数ダッシュ」「算数エース」「エンパワー数学・英語」等の神戸市独自教材の効果的な活用を一層進める。
- 「学びの基礎力向上推進事業」（学力向上を図るために意欲的な実践活動を推進する学校に非常勤職員を配置し、個別指導や複数指導、少人数指導を行う）等を活用し、学力向上及び学習・生活改善等の取組を進める。

### (2) 活用する力の向上

- 全ての教科において「読んで 考えて まとめながら 書く」指導を推進していく。
- 読んで考えてまとめながら書く力を育成するため「神戸まとめの達人推進事業」を実施し、取組を計画的・体系的に推進していく。
  - ①全小中学校において、授業や学校、家庭生活の幅広い場面の中で「まとめて書く」活動に取り組む「まとめの達人運動」を展開する。校長先生の講話や新聞記事、神戸市開発教材等を活用し、一定の条件のもとで簡潔にまとめる学習を行っていく。
  - ②中学生向けに、神戸にゆかりのある人物や事物をテーマとした「神戸まとめの達人資料集」を作成し「まとめて書く力」を伸ばすとともに、地元神戸への知識・理解や愛着心を育てていく。小学校では「ことばひろがる よみときブック」の一層の活用を進めていく。
  - ③各小中学校での運動を円滑に進めるため、授業のポイントや実践事例を集約し分かりやすくまとめた「実践ガイド」を作成する。
  - ④各区の小中学校1校ずつを「重点推進校」に指定するとともに、非常勤職員を配置し、区の拠点校として先導的な取組を行う。

### (3) 学習面における小中の連携

- 義務教育9年間で子どもを育てるという視点に立ち、教科毎に小中学校間の指導内容のつながりを明示した小中一貫カリキュラムの運用を進めていく。
- 小中連携モデル地区を中心として、情報の共有、各教科での連携、合同研修の開催等の取組を推進していく。

### (4) 読書活動の推進

- 論理的な思考とともに豊かな心を育む基盤ともなる読書活動を推進するため、先進的な取組事例をまとめた「読書活動実践事例集」の活用を図るとともに、朝の読書の推進、学校図書館の充実、外部人材との連携等に取り組んでいく。

### (5) 家庭学習と生活習慣支援

- 各学校では、学校独自の「学習の手引き」の作成等、家庭での生活習慣（睡眠時間や朝食の摂取等）や学習習慣について家庭と連携した取組を進めていく。